令和7年度～8年度実績　事前事後アンケート評価報告

洲本市「聴こえGENKI事業」調査結果と今後の展望

補聴器購入助成による市民の聴こえと生活の質（QOL）の変化（対象：59名）

2026年9月1日時点集計　（2025年7月補聴器助成開始）

令和7年度～8年度 事業実績（2026年9月1日時点）

気づきから受診・助成まで一貫して支援

聴こえ市民講座

45名

予防・知識の普及

聴こえ測定会

81名

うち32名に受診勧奨（38.3%）

補聴器助成該当

94名

R7助成70名・R8助成17名

交付申請者数

70名

アンケート回答59名を分析

事前調査で「難聴は認知症の大きなリスク」と知っていた方は71.3%。
助成が購入・装用の行動変容を後押しになる

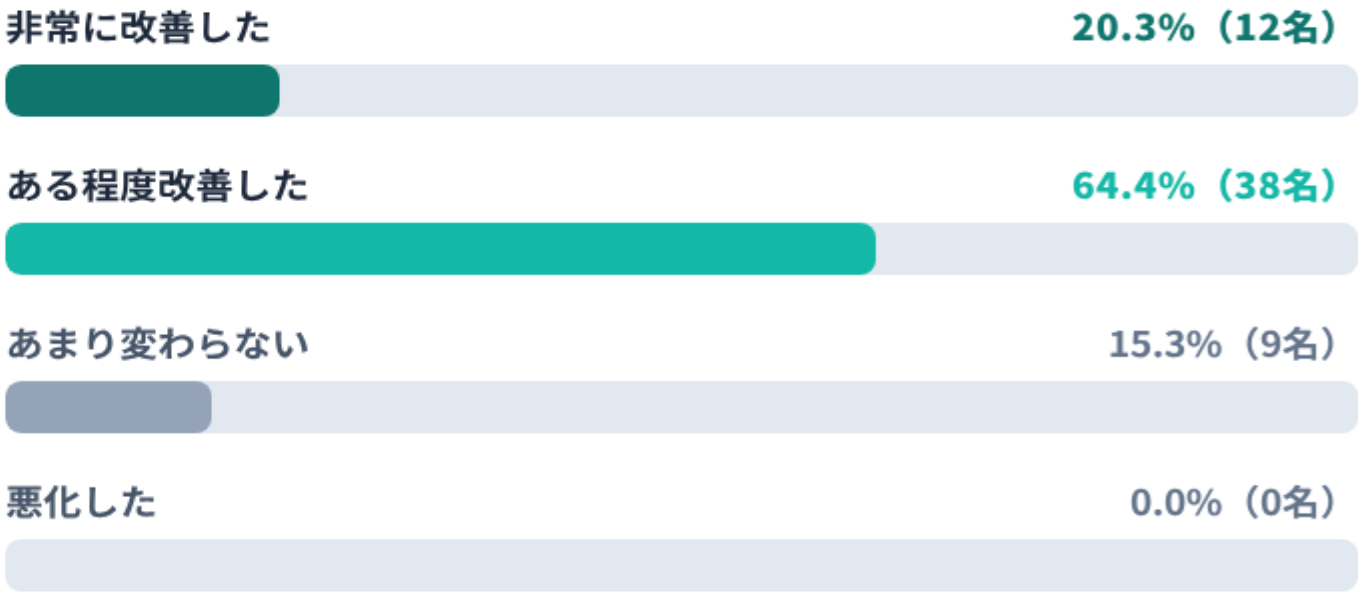
補聴器着用後の聴こえの変化（事後アンケート結果：n=59）

8割以上が「聴こえが改善した」と実感

改善を実感した割合

84.7%

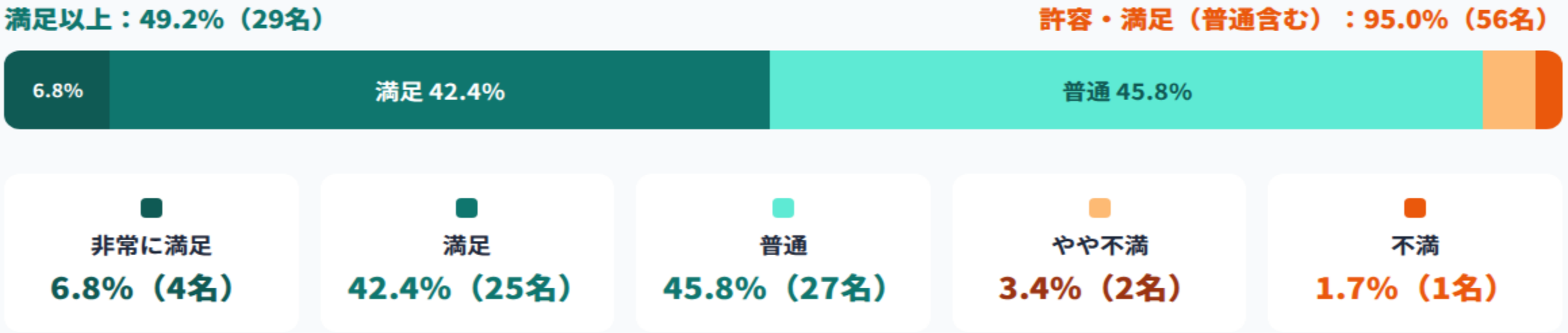
59名中 50名が改善を回答



補聴器着用後の　「聴こえの改善」と「満足度」

補聴器着用の全体的な満足度（n=59）

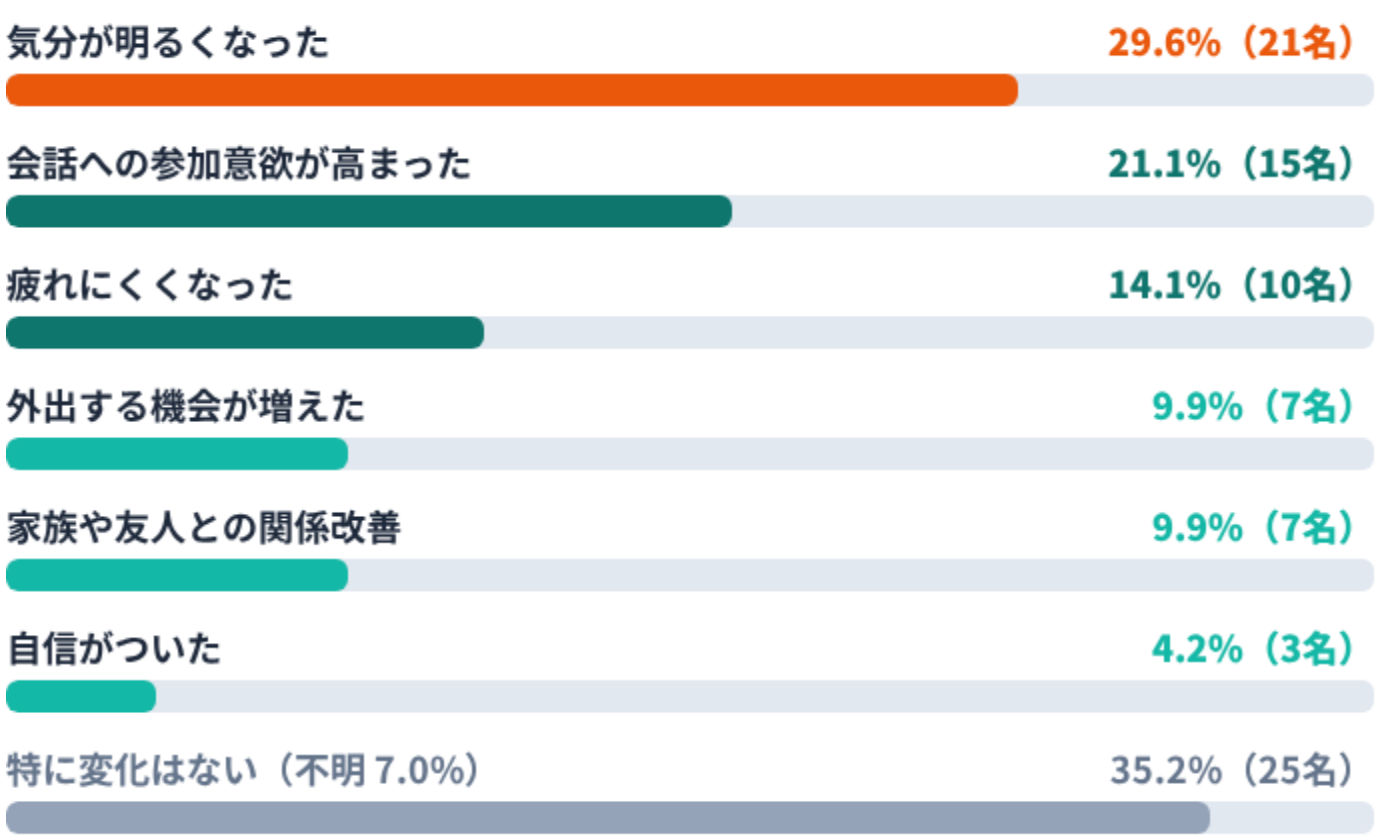
「普通」以上が95.0%に達し、高い受容性を確認



補聴器着用後の　「聴こえの改善」と「満足度」

聴こえ以外の変化・QOL（生活の質）の向上（複数回答）

気分の明るさや会話への意欲など心身に好影響



会話の喜びが日々の活力につながる



補聴器着用後の 「聴こえの改善」と「満足度」

事前・事後の比較評価　聴覚障害度（HHIE-Sスコア）の推移（n=59）

「重度」の割合が64.4%から28.8%へと半減以下に減少

事前（補聴器購入前）



事後（補聴器着用後）



軽度（0〜8点：障害なし）
3.4% → 20.3%
（+16.9pt）

中等度（10〜24点）
32.2% → 50.8%
（+18.6pt）

重度（26〜40点）
64.4% → 28.8%
（-35.6pt）

日常生活の聞き取りにくさと ストレスの軽減

日常生活の困りごと改善状況（HHIE-S 10項目）

すべての日常場面で「困る」と答えた割合が大幅に減少

困る場面（会話・生活音）	事前	事後	改善幅
小さな声で話しかけられた時	84.7%	59.3%	-25.4%
ラジオやテレビの音	83.1%	54.2%	-28.9%
レストランや食堂での聞き取り	72.9%	50.8%	-22.1%
初対面の人との会話	66.1%	35.6%	-30.5%
友人・親類・近所との会話	52.5%	33.9%	-18.6%

困る場面（心理・社会参加）	事前	事後	改善幅
集会や会合へ出るのをためらう	44.1%	28.8%	-15.3%
家族との会話のストレス	42.4%	32.2%	-10.2%
家族との口論	32.2%	18.6%	-13.6%
やりたいことが十分にできない	35.6%	16.9%	-18.7%
聞こえないことによる不利益	30.5%	13.6%	-16.9%

日常生活の聞き取りにくさと ストレスの軽減

今後の課題と取り組み方針

「助成して終わり」にしない3つの継続支援

1. 専門店とのアフターケア連携強化
継続的なフィッティング調整体制を充実

2. 補聴器の特性と正しい使い方の啓発
購入前の丁寧な説明で聞こえのギャップを解消

3. 地域・会話の場へ踏み出すきっかけづくり
変化を感じない35.2%の層へ社会参加を促進



地域とのつながりで笑顔あふれる洲本市へ

洲本市 聴こえGENKI事業

「聴こえる喜び」を、 地域の笑顔と健康づくりへ。